



# すわっ子だより

学校教育目標 ともに伸びる子  
かしこく ゆたかに たくましく  
令和5年10月3日(火)  
第7号 発行責任者 渋谷 恵子  
在籍児童数144名  
<http://higashiiwatsuki-e.saitama-city.ed.jp>

## 本質を見抜く力

校長 渋谷 恵子

すわっ子は、普段から虫と仲よし。業間や昼休みに外から戻ってくるその手には、かなへび、カマキリ、バッタ、ダンゴムシ、皆、捕まえた虫たちを自慢げに見せに来てくれます。いつでもこんな素敵な体験ができる本校の環境は、本当に素晴らしいです。

先日、1年生がすわ森（中庭）で生活科の授業をしていました。課題は「むしとなかよくなろう」です。網を片手に、お目当ての虫を捕まえ、観察します。児童たちは、虫かごに入っている虫たちとにらめっこしながら、その様子を書いています。

- つちいなごは、こげちゃいろです。くるまばったととのさまばったは、きみどりでした。
- くるまばったは、バイクにのってるみたいで面白いです。とのさまばったのしたが、ロボットのようになっていました。あしがおもしろいかたちでした。
- ばったをさわったら、さらさらしていました。めがちいさかったです。いちばんうしろのあしでとんでいました。くちがゆるゆるうごいていました。おしりがとがっていました。
- きりぎりすのあしが、ながいほうとみじかいほうがありました。はっぱをたべていました。

別の時間には、クレヨンを使って画用紙いっぱい虫を描きました。皆、文章も絵も、観察したまま、感じたままをしっかりと書き表すことができました。児童に虫のことを質問すると、知っていることを嬉しそうに話してくれます。よく観察し、姿や特徴、食べているもの、どんなところにいるのかなど様々なことが分かってくると、餌となりそうなものを探したり、虫かごに小枝や葉を入れたりなど、自分たちにできることを一生懸命考えて行動していました。虫への愛着も湧いて一層関心が高まっている様子です。

ところで、中村 哲（なかむら てつ）さんをご存じでしょうか。パキスタンとアフガニスタンにまたがり医療支援を行っていらした方です。中村さんは、小学生の頃、虫が大好きで昆虫採集のために毎週山に出かけては、観察を続けていたそうです。そして、その頃身につけた「よく観察する習慣」は、中村さんが現地です仕事をする上でとても重要な役割を果たすこととなります。当時のアフガニスタンは、他国との戦争や内戦、さらには大干ばつの影響等により人口の半数以上の人々が被害を受け、生きていくことが難しいという状況がありました。その頃現地で医師として働いていた中村さんは、病気の治療や薬を処方するだけでは救える命が限られてしまうと考え、より多くの人々の命を救うために、本当に必要なことは何かという問いに対する答えを追い求めていました。現地の様子をくまなく観察し、その土地の気候や地質、住んでいる人達の生活の仕方、考え方、大切にしていることなどを知り、現地の人々に寄り添って考えました。そして、中村さんが導き出した答えは、「水」であり、「井戸を掘り、用水路をつくること」だったのです。清涼な水があれば、身体を清潔に保てたり、汚れた水を口にして病気になったりしないし、畑で作物を栽培して自分たちで食糧を確保することができる。それにより約65万人の命が救われたのだそうです。中村さんの「見ようとする力」が、多くの気づきを与え多くの人々を救うことにつながったということです。

残念ながら、中村さんは2019年12月、作業現場に向かう途中命を奪われ帰らぬ人となってしまいましたが、現地の人はその志を大切に守り、受け継いでいるそうです。

〔中村哲物語 松島恵利子著 汐文社〕

支援者である私たち（教職員、保護者・地域の皆様）は、児童たちが様々なことに興味をもって目を向ける機会を設けたり、働きかけたりする役割があります。中村哲さんのように、本当に大切なものは何かを追い求め、その解決に向けて行動できる児童の育成を目指して、日々の教育活動を推進してまいりたいと思います。